

産業廃棄物処理計画書

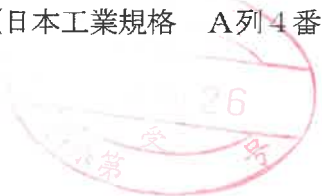
2024年 6月 21日

岐阜県知事 殿

提出者
住 所 岐阜県安八郡安八町南條1201
氏 名 グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社 岐阜工場
工場長 中田 司
電話番号 (0584) 64-2345

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

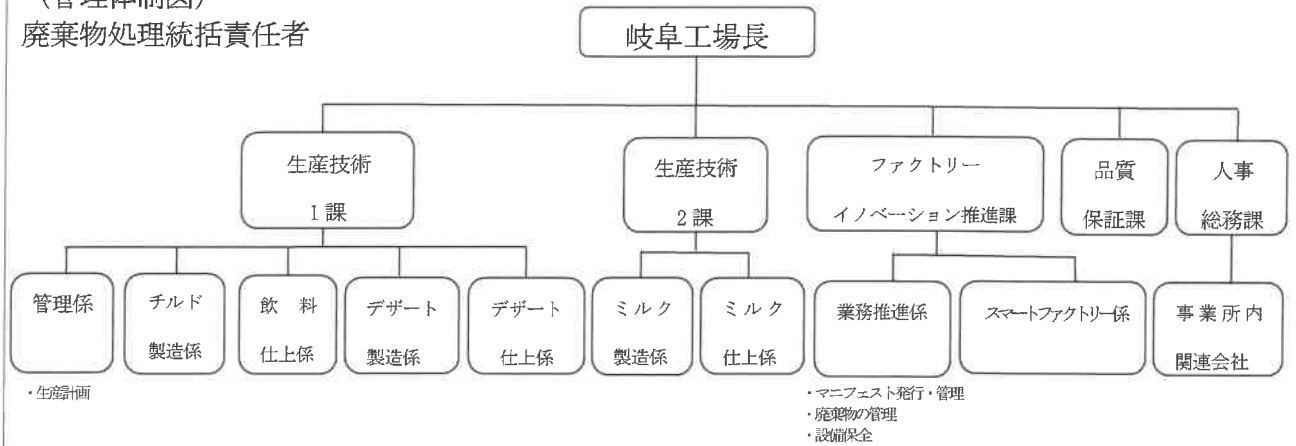
事業場の名称	グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社 岐阜工場
事業場の所在地	岐阜県安八郡安八町南條1201 及び 1302-1
計画期間	2024年4月1日 ～ 2025年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	食料品製造業
② 事業の規模	2023年度 製造高 126億円
③ 従業員数	177名(2024年4月1日現在)
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<div>汚泥(排水処理場の汚泥)・動植物性残渣(コーヒー粕)・汚泥(粉ミルク)・廃酸・廃プラスチック・木くず・廃油・ガラス屑コンクリート屑及び陶磁器屑・廃蛍光灯</div> <div>直接委託</div> <div>中間処理業者により、堆肥化・飼料化・再資源化・埋め立て。保税品の粉ミルク(汚泥)は焼却処分。</div>



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

廃棄物処理統括責任者



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（ 2023 年度）実績】									
	産業廃棄物の種類	汚泥(排水処理場の汚泥)	動植物性残さ(コーヒー粕)	汚泥(粉ミルク)	廃酸	廃プラスチック	木くず	廃油	ガラス屑 コンクリート屑及び陶磁器屑	廃蛍光灯
	排出量	550 t	473t	128t	110t	104t	2t	0.2t	0.2t	0.03t
②計画	(これまでに実施した取組)									
	<ul style="list-style-type: none"> 生産計画の精度を高め、且つ作業管理を徹底してロスを削減した。 排水処理技術の向上により、汚泥発生抑制技術への取り組みを行なった。 食品廃棄物の有価物化に取り組み、削減を行なった。 									
	【目標】									
②計画	産業廃棄物の種類	汚泥(排水処理場の汚泥)	動植物性残さ(コーヒー粕)	汚泥(粉ミルク)	廃酸	廃プラスチック	木くず	廃油	ガラス屑 コンクリート屑及び陶磁器屑	廃蛍光灯
	排出量	545t	468t	127t	109t	103t	1.9t	0.2t	0.2t	0.02t
	(今後実施する予定の取組) <ul style="list-style-type: none"> 生産計画の精度を高め、且つ作業管理を徹底して、作りすぎ廃棄、ロスを削減する。 工程トラブルミスをなくし、廃棄品を抑制する。 発生抑制のため、製造方法の見直しを検討する。 									

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none"> 廃棄物については、分別を徹底し、リサイクルに努めている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none"> 上記について、今後も継続して実施する。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度（ 2023 年度）実績】									
産業廃棄物の種類	汚泥(排水処理場の汚泥)	動植物性残さ(コーヒー粕)	汚泥(粉ミルク)	廃酸	廃プラスチック	木くず	廃油	ガラス屑 コンクリート屑 及び陶磁器屑	廃蛍光灯
全処理委託量	550t	473t	128t	110t	104t	2t	0.2t	0.2t	0.03t
優良認定処理業者への 処理委託量	232t	61t	128t	0t	0t	0t	0.2t	0t	0.01t
再生利用業者への 処理委託量	318t	412t	0t	110t	104t	2t	0t	0.2t	0.02t
認定熱回収業者への 処理委託量									
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量									
<p>（これまでに実施した取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーヒー粕の水分を抜くことにより、減量化した。 ・廃プラスチックは、分別回収を推進することにより、リサイクルを推進した。 ・汚泥は、排水処理方法の管理強化により、減量化した。 									

②計画	【目標】									
	産業廃棄物の種類	汚泥(排水処理場の汚泥)	動植物性残さ(コーヒー粕)	汚泥(粉ミルク)	廃酸	廃プラスチック	木くず	廃油	ガラス屑 コンクリート屑 及び陶磁器屑	廃蛍光灯
	全処理委託量	545t	468t	127t	109t	103t	1.9t	0.2t	0.2t	0.02t
	優良認定処理業者への処理委託量	230t	68t	127t				0.2t		0.01
	再生利用業者への処理委託量	315t	400t		109t	103t	1.9t		0.2t	0.01t
	認定熱回収業者への処理委託量									
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量									
	(今後実施する予定の取組) ・ コーヒー粕中の水分を抜くことにより、減量化する。 ・ 廃プラスチックについては、産業廃棄物(廃プラ)として、RPF(廃棄物燃料化)によるリサイクルを引き続き行い、廃棄物削減、CO2発生抑制、代替エネルギー化など、地球環境へ配慮する。 ・ 廃酸の有価物化を引き続き行なう。									
※事務処理欄										

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。